

旅は人

旅は人生

久良岐乳児院

長谷川 正弘

箱根旅

神奈川県とは言え、横浜は元より東京からでも行き易く名の知れた観光・温泉地として『箱根』が古くから挙げられていました。そして其処が文明開化の幕末から明治時代初期に掛けて既に外国人対象の避暑地ともなり、後に記載がありますが、芦ノ湖畔には函根離宮はこねりきゆう（一迎賓館げいひんかん）も建てられていた様ですが関東大震災で倒壊その跡地は、現在『恩賜箱根公園』となっています（前述の通り、建物そのものは既に倒壊して無く、現在は何とも言えない中途半端な屋根と柱だけの鉄筋コンクリート製入母屋造の建物と洋館風な展望館が建っています。展望館の二階バルコニーからの富士山の眺めは赤い鳥居は視界に入ら無いけれど芦ノ湖の奥の奥まで見えていて其の北北西の外輪山上に富士が見えていて、箱根からの富士見としても最高かも知れない、絵になると思っています）。其れに伴い日本なかの中でも、一早く有料道路としての人力車道が、続いて馬車道、更に自動車専用道路へと歴史的に整備・変遷されていったと聞きます。因みに、明治数年には有料人力車道が既にあつたと云う事（小田原宿かみがたみつけ 上方見附から 湯本 まで）が、旧東海道と現国道一号線との分岐で、現在の湯本の手前の箱根新道との分岐でもある辺りにエッチングで出来た歴史案内の高札に「福沢諭吉と其の有料道路の関わりの由来」が書かれていたのを旧道歩きをした時に読んで、不勉強な私は「こんな所にも福沢諭吉が登場するのかっ…!」と驚いた記憶があります。要するに福沢諭吉は箱根を文明開化の一事業として“おもてなし”の為の国際観光地として拓ひらきき、其の事で日本の皇族・貴族・特権階級更にその後のホワイトカラー層にもリゾートと云う事の認識が生まれたのであろうと思っています。此の事がもとで、外国人向けリゾート地の地域も広がり、更に遠方の軽井沢・日光等もそうした外国人向けリゾート地へと発展していったわけで、軽井沢行の為には、あれほどの鉄道敷設困難地である碓氷峠てつどうふせつにアパート式の鉄道いちはやくふせつ迄いち早く敷設させたのでした。因みに、アパート式が日本で採用されたのは当時信越線碓氷峠しか無く、上りのきつい箇所はループ式かスイッチバック式が採用されていました。その方が安上がりだからであり、アパート式だと動力車自体もアパート式クラックレールに対応できるもので通常より馬力のある動力車を用意しなければならないからでした。こうした最上級の“おもてなし”の精神が、日本の近代化を生むことに繋がっていった訳です。

更についで最近まで NHK の大河ドラマにもなっていた『晴天を突け』の**渋沢栄一**は箱根仙石原に**緬羊**の牧場としての『**耕牧舎**』を開拓、現在牧場跡地には当時の支配人**須永伝蔵**(渋沢栄一の従弟に当たる方:仙石原 2 代目村長)の記念碑があるそうで、仙石原からゴルフ場沿いに歩いて湖尻まで歩いて見たいです、その途中に『**耕牧舎**』の碑がある様なので…。

明治2年(1869)に仙石原裏関所が廃止されて 10 年余り、山奥の仙石原に開発の手が入られ、渋沢栄一、益田孝等による耕牧舎牧場の出現となります。

かねてより**毛布**の製造に着目し、**緬羊**の飼育を計画していた渋沢栄一は、自ら現地を調査した結果、適地を仙石原に定め、明治 12 年(1879)神奈川県に出願して、737 町3反 1 畝 5 歩の払下げを受け、翌明治 13 年 2 月、従弟の須永伝蔵を現地責任者として開拓に着手しました。耕牧舎の資本金は4万円で、出資者は渋沢栄一、益田孝(初代三井物産社長)、小松彰(東京株式取引所頭取)の3名でありました。

この土地は、村の**共有株場**を県が**牧畜試験場**として買収してあったものでした。当時の仙石原村は、戸数 45、農業に従事するかたわら、箱根細工用の**樵**や**空木**等の立木の伐採搬出を副業としていたが、立木が減少してその副業も下火となっていたから、牧畜作業に必要な人夫の供給は、村民にとっても救いでもありました。

牧場に着任した須永伝蔵は、文字どおり野に臥し山に寝て開拓に努力しましたが、牧場一帯には**萱**が**繁茂**してとういて**牧羊場**とすることができず、更にそのため土地を開墾し、牧草の栽培をするため、力仕事に使う牛や馬を購入して耕し、収穫から脱穀、運搬や収納に使用する農機具を輸入・購入して、西欧式の家畜を活用した畜力農機具を酷使して大規模な開墾が行われました。しかし、西欧式農法は、千葉の下総牧羊場で伝習を積んだ須永伝蔵や松村泰次郎でも経験がなく、従業員は猶更不慣れなこともあり、大規模な開墾作業は困難をきわめ、開墾できた土地はわずかだった様です。

やむを得ず計画を変更して、洋牛 30 頭を米国、和牛 30 頭を岩手・青森より購入、種牡牛は勸農局より貸下げを受け、翌年には早くも宮之下に支店を置いて、牛乳の販売を開始しました。またつづいて始めたバターの製造は、箱根を訪れる外人に好評を博したと言われています。その後、小田原や東京にも支店を設けて販路を拓げましたが、仙石原の風土が災いして、耕牧舎の経営は順調とはいえなかったようです(箱根温泉供給社史)。明治 37 年(1904)1 月 20 日の横浜貿易新報は耕牧舎の牛馬数を「牛 132 頭、内、外国種

80、雑種 52、他に馬 30 にして雑種なり」と報じていますが、創立当時の数に比べさして増えていないのが現実でした。

明治 37 年 8 月、須永伝蔵の死によって適任者を失った耕牧舎は、翌 38 年牧畜の事業を廃止しました。その後、耕牧舎の所有する土地の半分は仙石原村に寄付され、残りの土地は三井物産の管理となるが、昭和 3 年、仙石原地所(株)に移り、更に、箱根温泉供給株式会社(昭和 5 年)へと、渋沢栄一、益田等耕牧舎創立者の奥箱根開発の遺志は引き継がれました。須永伝蔵の波乱に満ちた生涯については、稲村得寿著『芦の湖分水史考』に詳しく述べられています。但し、この「分水史」とは 350 周年を迎えんとしている、江戸時代初期に着工され約四年間で完成した、深良用水(箱根用水)＝箱根外輪山湖尻峠^{ふかしら}の地下にトンネルを掘り芦ノ湖の水を灌漑用水として狩野川水系黄瀬川支流の深良川に注ぐよう造られた、当時としては画期的大工事であったであろう処のその深良用水の歴史の中に逆川事件と云う事件があり、其の首謀者が須永伝蔵であったから、記事として省くわけにはいかなかったのではあると思う。必然として仙石原の水不足に端を発した芦ノ湖水利を巡って静岡県側へ分水する箱根用水を管理する深良村外六ヶ村水利組合と衝突し、明治 29 年(1896 年)仙石原村村長勝俣沢次郎・近隣村大窪村村長市川文次郎と箱根付近の村民らとともに堤を破壊する事件を起こし(逆川事件^{さかさかわ})、静岡県側より勝俣・市川とともに訴訟を起こされた。判決は二転し大審院まで争ったが、明治 31 年(1898 年)刑事では禁固 1 か月・罰金 2 円の有罪。渋沢栄一や富田鐵之助の仲介を得て、水利の都合を条件に静岡県側と和解した。従って箱根側への分水設備が整わないまま、明治 37 年(1904 年)に須永伝蔵は死去した事になる。これを読まれて、「早川」があるのではと思われる方も居らっしゃると思いますが、恐らく芦ノ湖を流れ出た水は一旦仙石原湿原に吸い込まれ、川という形態をとらず、灌漑用水として使いにくい状態であったと推測できる。そして「逆川事件」の判例がもとで、今日未だに湖尻水門からの排水が早川に流れ下る事もないそうで、芦ノ湖の排水は基本静岡県側に排水されているそうです。

一方、其の渋沢栄一は 1930 年には『箱根温泉供給株式会社』を設立、大涌谷^{おわくだに}の温泉(更に、温泉の効能についてはドイツ人医師ベルツが指導的役割を果たしたと言われている)を供給し別荘地開発と仙石原周辺の温泉観光地を支える大事業を成し遂げたとのこと。仙石原の観光的發展の陰に渋沢栄一在りと云った処でしょうか、之らの事柄こそが正に文明開化なのでしょう、今更のように一寸解った気がするのです。

そして、その後の『^{こうぼくしや}耕牧舎』、実は近代日本文学の代表とも云える芥川龍之介の生誕地でもあるのだそうです。但し、其の当時既に、箱根仙石原ではなく築地の居留地での需要が増え、明治中頃に入り京橋区入船町 8 丁目(現・中央区明石町)に移って在った『^{こうぼくしや}耕牧舎』で、**新原敏三**が経営する乳牛牧場で支店も何箇所か(新宿にも其の牧場があったとか)ある**牛乳販売会社**でした。因みに芥川龍之介は、上記**新原敏三**の長男なのでありましたが、新原と芥川と姓が異なる辺りの説明は此処では省略致します。何れにせよ、文明開化が日本の近代化を生み、日本の近代化が近代日本文学を生んだと云う構図が此処に見えます。

諸々調べ出すと、切りが無く広がっていきます…。渋沢栄一と箱根の関係から始まって、「耕牧舎」の東京での広がり繋がりで芥川龍之介まで行きついてしまいました。そして、長生きされたこともあるかも知れないが、渋沢栄一と云う人の才覚と人生・人脈に改めて、NHK 大河では出し切れ無かった面白さを感じました。そして、渋沢栄一を核に、日本の近代化に活躍した、(指導的立場の人や資金提供者)日本人及び外国人が登場しました。其処の纏めは何れまた…と云う事にして…話を箱根に戻しましょう。

さて、近年の子どもの頃からある時期までの記憶では、関東以外は定かでないですが箱根・日光・軽井沢(=これら東京・横浜(神奈川)に近い国際観光地)の地も進駐軍接待用にアルファベットが溢れていました。特に身近な所で、箱根宮ノ下の富士屋ホテルの隣やお向かいの、今はいつの間にか無くなってしまった、記念写真撮影屋さん等のショーウィンドウの金文字のアルファベットが懐かしく思い出されます。私は同じく国際観光地として拓かれた日光にも行っていた時期がありますが、東武日光駅周辺のお土産屋のアルファベットや中禅寺湖畔にも外国人の別荘が朽ちかけて在ったりして、其れでも残されていたのを覚えています。既に 30 年以上行けていませんが、中禅寺湖畔には両親の定宿にしていた宿もあった時期がありますが、一方箱根も年代によって、時期毎に行く場所や泊る場所も違ってきましたが、特に結婚後の同行者と子どもたちや両家の両親たちとも色々な行き方や楽しみ方をしてきました。例えば箱根裏街道沿いを上り、金時神社手前の今は廃業したコンビニ脇から尾根に登り矢倉沢峠うぐいす小屋を経由して、尾根伝いに北西方向に金時山を目指したり、同峠から東方向に明神ヶ岳更に明星が岳を大涌谷・小涌谷を遠望しつつ經由して宮城野へ下山した事もありました。

がしかし、そもそもの始まりは矢張り、子どもの頃に在ると思います。実は箱根と云うと以前も書きましたが、最近^{ひとやすみ}は年に何回か一休みと云う時に行っていますが、意外と子どもの頃からバブルに関係なく、馴染みのある場所だったと感じています。小学校以前に初めて箱根に行ったのは^{おお}多人数一族郎党約10人弱で「葦の湯」の『松坂屋』の貸別荘の様な所に行ったのが初めではないかと思います。泊ったのか何かさえ何にもかも覚えていないのですが、行ったことだけが断片的な記憶としてあります。当時は未だ進駐軍の無線基地であった二子山山頂一帯の基地のゲート前にもMPが歩哨に立っていた時代で、うっすらと施設内の米(軍)人と金網のフェンス越しに何やら話していた一族の男の大人たちを覚えているのです。そんな二子山の麓、一面のすすきの原…今は中途半端に斜陽…、何れにせよあの頃から比べると箱根も随分変わって来たと感じているのです。因みに、私が初めて行ったこの^{あたり}辺りは『葦之湯』と云う所でしたが、その後、更に駒ヶ岳山頂への駒ヶ岳ケーブルカーの上り駅まで、思いの外にぎわっていた時期もありました。其処に在る『松坂屋』も昔は老舗中の老舗だったようですが、今は地図上でもあまり認識していませんでしたが『きのくにや』が競うように葦の湯地域に広く点在している様子ですし…。

今書き出して思い返すと少し繋がってきた事があります。父方祖父の亡くなった後、京王井の頭線富士見ヶ丘駅から玉川上水方向 南へ歩いて行った丘の上に祖父の土地があったらしく、検分に行った(これにも幼稚園入園以前の私は連れていかれていた:長男の長男、要するに惣領として父が扱っていたことが今解る)結果、あまりにも^{よくふうえん}浴風園(老人ホーム)が数メートル道路を隔てた目の前で、朝な夕なに^{なくなられたかた}亡くなられた方の出棺を見送る事があるのでは…と想定し、^{いささか}祖母も些か気が重いと云う事で…、売却することにした様でした。そして、その先如何するかと云う考えの中の一案に、皆が使える別荘様なものをと考えた様な…、と云う事で前述の貸別荘は借りたり泊ったりと云うより検分に行ったのでは…と記憶の断片を紡いでみると今思い当たるのは上記の様な具合ですが結局夫々に分ける事としたようで、幼年航空兵で中国拘禁抑留後何とか帰還できた傷痕軍人であって、亡くなるまで左肘にギプスをして居た叔父は、その祖父の遺産を元に当時日本ではまだ数少なかった工業デザイン屋を(工業デザインと云うものが広く世に広まる直前の時代で、先駆け的であった)中小ではありましたが始めたのでした。一方現在、^{よくふうかい}浴風園前のこの土地は最終的には社会福祉法人浴風会が買った様で、更にその後も広がりを見せていったようです。高齢化社会の現在の地図を観ると可成り広大な一帯を占めており、本部事務局のある一棟の他、大きな浴風会病院二棟や「^{ふたむね}認知症介護の為の研究・研修センター」もあり、更に其処に特別養護老人ホーム三棟も点在

し、軽費老人ホームや有料老人ホーム第三南陽園他同レストランも敷地内に広がっているのです…。因みに嘗て、NHKの大河ドラマで宇野重吉氏(寺尾聰の父)の扮する蜘蛛の陣十郎せくところが役処として光った、『赤穂浪士』の吉良邸討ち入りから引き上げシーンのオープンセットを造ったと聞いて興味を持った事のあるNHKのグランド跡地を含む王子製紙富士見ヶ丘グラウンド跡地、国立印刷局久我山運動場跡地を統合した『高井戸公園』予定地の倍近い面積があるのに驚かされます。因みに其の『高井戸公園』予定地は浴風会のほぼ西隣にあるのでつい比較してしまいましたが…。

日光のイロハ坂も第二イロハ坂が出来て上り下りをわけ、更に東北自動車道と支線で繋いで大いに変わりましたが、箱根は国道一号線で言えば箱根新道が出来て観光しない人や箱根に用のない人は箱根峠まで観光スポットの何処も通らず一気に登り、三島に向けて一気に下る事が出来、観光と流通や通り過ぎる人を分ける事で、少しは混雑の解消になったと思っています。其れに、旧道も一般道としての国道一号線(箱根駅伝が走る道)も拡幅工事や安全対策が施され、其の箱根駅伝でも映像が映る大平台手前の大曲で(昔は急で狭い傾斜のある正にヘアピンカーブだった)以前はよく其のカーブをハンドルを切りそこねて、一段戻っている車があったり、カーブの先端に車輪が前後共に宙に浮き引っ掛かって斜めになったり、横転している車を見かけた事を思い出しますが、今はそうした光景はほとんど見かけなくなりました。但し一方で前述の通り、最近までに何度となく、拡幅工事や安全点検と対策もされて、自動車の性能も良くなり、安全にスイスイ行けるようになっただけに、嘗て名所としてバスガイドさんが道々説明してくれていた記憶のある処の滝や旧跡等全く見ずに湯本から芦ノ湖畔迄一時間足らずで昇り切ってしまえ、少しつまらなくなったのかも知れません。そして、東名高速道路の開通により、短時間により遠くへ行けるようになり、一頃首都圏の足元に在る箱根自体がバブルの崩壊もあってやや斜陽になった時期も何波かあった様に記憶しています。其の度に新旧交代もあり、確かに紆余曲折あって今も変化しているのを感じますが、昨今は温泉ブームが続いており老舗風新築旅館やホテルも増えている様に思っています。例えば会社の保養施設の夫々が会社の都合で一斉に手放した時期があり、多くの調理人や管理人が失業すると聞きましたが一方向、その建物をリホームし従業員や調理人もそのままに、低価格の温泉旅館・リゾートホテルとして蘇らせたり、その低価格の温泉旅館・リゾートホテルも一早く取り組み、成功し発展して、遂には独自の施設を建てるに至った会社もあるが、出遅れて立地の悪い場所の保養所を買収し、失敗した会社があったり其処にも競争による浮沈があ

った様に見ています。それ以前に小田急と西武の『箱根山戦争』、別称『箱根山さるかに合戦』と揶揄される経済紛争・法廷闘争があった事は皆さま御承知の通りで、まだ状況は変化しながらも続いている様に想うのですが…。特に、箱根山戦争のおおもりもあってか、テーマパーク様のものは交代が激しいように見えます。因みにテーマパーク様のものとしては、たまにしか来ないのに余所のテーマパークも沢山経験している人々が多く、目だけが肥えてきて、その肥えた目で選ばれるので企画も大変なのだと思うのです。実は駒ヶ岳に登るロープウェイでなくケーブルカーが駒ヶ岳の東側にありましたが、何年も前に消滅しましたし、駒ヶ岳頂上の箱根園のスケートリンクも既に原野に戻りました。駒ヶ岳芦ノ湖側の下の蛸川ひこがわの辺りには私が子どもの頃、国際ボーイスカウトスカウト・親睦キャンプ(国際村=ユネスコ村開村記念)の後、しばらくそのまま西武得意のユネスコ村の象徴的オランダの風車・小屋風な建物だけがいつまでも残っていました。しかし、その一帯も今はゴルフ場ふようていや扶養亭や中華料理店になり、その扶養亭も遂には中華料理店までもが閉店・廃墟化してしまいました。此の中華料理店は後半随分利用しました…量も多く比較的低価格で子ども(孫)連れの時の昼食には絶好でしたので残念です…。

この蛸川の辺りのポイントは外輪山に阻まれて上半身だけの富士山ではありますが良く見える位置でありまして、今でも私共の独り占めできる一つの富士山のベストポイントになっています。因みに、蛸川辺りとは芦ノ湖沿岸の箱根園の少し上辺りを走る72号線箱根園入り口と云う72号線に対し芦ノ湖へ下るT字の交差点があります。その交差点で芦ノ湖に背を向ければ必然的に箱根園ゴルフ場が見えます。そして、ゴルフ場又は駒ヶ岳に向かって右手、ゴルフ場と72号線との間に元駐車場の様な空きスペースが在り、其処に車を入れ込んで北西方向に車を向けると其の辺り正面に外輪山越しの富士山が白く輝いて見えるのです。一時代前風に考えれば、丁度扶養亭の屋根の上あたりに見えることになりそうで、扶養亭も営業している時は一度も入った事は無いのですが…、恐らく扶養亭の名の通り、富士山の見える和風レストランだったのでしょ、ロケーション的には良い所に建てられていたのだと思います。

処でしかし余談ですが、変わらないのは富士山だけ…と思いがちですが、その富士山を不滅などと思いつ込むのは間違えのようで、何せ活火山ですから富士山の噴火説も時折囁かれるのは当然の事なのでしょう。「富士山のない日本なんて…」ですが…、何時かは吹っ飛んでしまうのでしょうか…私、富士山が在る内に冠雪の富士山を見つ死にたいです。

さてテーマパークに話を戻して、私、此処も営業中に入ったこと有りませんでした但因みに

箱根園系の『樹木園』なる物もありました。いつの間にか雑木林ぞうきばやしに戻り、遂に建物も撤去されてしまい、この辺りの林は沙羅あたりの樹が多いのですが、『樹木園』だけあって諸々の樹が植えて在った様で、今はただの植生の違う樹々の森に戻っていますが、怖いような森林に変貌する以前は、特に立ち入り禁止とも掲示されておらず、ワイヤー一本張られた入り口痕跡の少し引込んだ路肩に車を停めて、誰も居ない旧園内を何度か散歩してみたりしていました。此処も木の間隠れに富士山が良く見えるポイントのある場所でしたが…人手の入っていないジャングル化した雑木森林ぞうきしんりんが富士山を隠してしまいました。

その近くに矢張り『箱根園』系 つまり西武系の『ピクニック・ガーデン』もありましたが、此処もいつの間にかゲートがなくなり、やがて建物も消滅し高原に戻りました、自然保護なのでしょうか…、其れとも西武の衰退…？

旅館・ホテルなども入れ替わりはあったと思います。宮ノ下の富士屋ホテルなど老舗中の老舗ですが如何にも古く、歴史の舞台ともなったことあって、一時は歴史的観光スポットになってレトロ感を売りにしていましたが、ついに極最近リホームしたようで、如何変わったのでしょうか、外観は変わっていないようですがチョツと気になる処であります。因みに、奈良ホテルなども旧館のレトロ感(館)はそのままに、別館として新しい建物を併設と云うより合体していて、別館の客も普通に利用できる旧館状態を残した食堂などは食事も落ち着ついて出来ましたが…。宮ノ下と云えば、比較的最近にはあちこちにチェーン店のある「エキシブ・箱根離宮」も見た目高級感を売りにして新築されたりしています。話はまた逸れますが、私学共済組合の宿泊施設、京都の白河院・鎌倉のあじさい荘・葉山の相洋荘はシーズンオフを狙って利用した事はありますが、箱根の対岳荘だけは一度も利用した事が無いのは、所在地が大平台の外れで宮ノ下より大分下ですから、チョツと箱根の核心部ひたにはもう一登り遠い所と思うからです。無論、芦ノ湖まで行かず、箱根湯本から強羅辺りを中心に歩くのであれば其れもありかも知れないとは思いますが…。

西武系の『箱根園』本体は…と見て見ると、随分と変化を繰り返し、一時期は荒廃していましたが今や水族館も立派にリホーム出来、やっとバラエティーに富んだスペースになり、安定して在ると思える様になりましたのですが…此処もそもそもの始まりは国際ボーイスカウトスカウト・親睦キャンプ(国際村開村記念)の開会式場であった様に記憶しています(別に私ボーイスカウトほーいすかうとや遣っていませんが、何故かインパクトがあつて、はっきり覚えているのです)。何か聖火台の様な物が湖畔にあつたはずですが…。西武は此処にプリンスホテル、箱根園、新龍宮殿・駒ヶ岳ロープウェーの四点に集約させたように思います。

それにしても一時は箱根のそこら中に西武のレオ・マークを見かけました。海賊船(小田急)以外の芦ノ湖遊覧船(双胴船等)は総て西武の物のはずでしたが…今はレオ・マークは消滅していますが、箱根の中でレオ・マークが目立たなくなっているのは何故なのと思っています。そう言えば、前述の今は無く廃線となった駒ヶ岳ケーブルカーのヘッドマークにもレオ・マークがついていました。箱根も地場産業を充実させて、多くを地元の収益にする必要はあるのだらうとも思うのです、現在はそういう時代なのでしょう、地方創世の時代ですから。其れと、否めないのは箱根では少し西武が危ういのかも知れないですが、更に西武その物が危うかったのかも知れません。

私、小学校では「夏の学校」と云う、要するに林間学校・臨海学校がありました。低学年間は箱根、高学年間は赤禪付けて千葉の波佐間海岸中心でした。一年の時は仙石原の老舗旅館『仙郷楼』^{「せんきょうろう」}に数泊泊りました。チョッと気になって調べてみた処、この仙郷楼も渋沢栄一と深く関係があり、前述の温泉供給会社への共同出資者の一人に「仙郷楼」のオーナーも居たそうです。現代の私としてはポーラ美術館へ行く度にその「仙郷楼」の脇の道から入り込んで台ヶ岳の周囲を回り込むように我が車で登って行っています。因みにこの道は強羅に抜けられる道でもあります。ポーラ美術館は以前から、その敷地内の散策コースが無料で散策できるようになって居り、最近は更に途中から別コースもつくられ拡充され、特別展示が前回と同じような時は、中へ入らず敷地内の散策コースを歩くだけで、戻ることもあるのです。其れはさて置き、小学 2~3 年の時は、芦ノ湖畔にある学園の寮に泊っていました。此処は昔々の岩崎家(此処もやはり、文明開化と深く関係して居そう…)の私設ゴルフ場であったそうで、廃墟化してお化け屋敷の様になったクラブハウスを探検した記憶がありますが今は其れから既に 65 年近く経っており、跡形も無くなり、原野に戻った様です。その近くには「情風台」^{じょうふうだい}と云う平地 国旗または校旗掲揚の柱の建つ広場が傾斜地に囲まれてあり、旗掲揚柱を見上げた更にその向こうには芦ノ湖が見え、其処で毎朝、先ずラジオ体操をして一日が始まったような記憶があります。今思えばもしかすると富士山も見ようと思えば見えたのかも知れないですが、見えたとか見えないとかの記憶さえ無くなった今です。またまたチョッと話逸れて、逆に何時の頃から富士山を意識し始めたのだらうと思うのです。因みに、以前も何度か書いてきた義父の会社の寮が、山中湖に在って山中湖からの富士山は何度も見ました。夏の夜の富士山、月明りで富士山の輪郭が黒々とはっきり見え、ジグザグに登る人のヘッドランプのあかりが点々と続いて登って見えるのが印象的でした。いや中学一年生で友達数人でキャンプ

に行った精進湖で、黒々と大きく見えた恨み裏見の富士山に感動しているはず…、精進湖からの富士山は湖に対し南側に在り、太陽が富士山に被る感じでシルエットになるのです。そして岡田紅葉と云う往年の富士山写真家の中古の写真集を買って所蔵し見ていた…事もありますが、ならば何時頃…。想えばそもそもの出会いを忘れてしまっている今、最早当たり前前の存在になってしまっている様です。さて、富士山が良く見える金時山登山が低学年毎に違うコースで行われたと覚えています。今登ってみると、こんな所を小学生でよく登ったものだと思える山頂直下辺りの急登は大変ですが、小学生の頃より遥かに老いているのが今の私なのかも知れないと思う今日この頃です。そして夏の学校の歌があり、歌詞には、其の『仙郷楼』や『情風台』が出てくるのでした。上記の様に鮮明な記憶ではないにせよ、そんな小学校低学年の想い出がある箱根でもあります。別に私、ホームシックで泣いたり、朝起きたら敷布団に地図が画けていたりで、先生を困らせた記憶はありませんので、箱根に嫌な印象はありませんよ。

中高生時代は単独行の山やま中心で、箱根のみならず何処とも縁が無かった様な思いがします。両親が出かける時は同行しない口実として父の温室の温度の管理や水遣りを引き受け、其処は言われた通りにやっていて失敗が無いので託されていました。ですから箱根行の次のシーズンは結婚前後のこと。永らく日光の中禅寺金谷ホテルを定宿としていたが、遠さがあり長くは父も座って居られなくなり、母の運転ももたなくなったこともあったのか、箱根で良い所を探していたようで、湖尻うみづしと仙石原の間、姥子うばこを経由する処の75号線沿いの遠望 乙女峠の上辺りに富士山を遠望できる箱根観光ホテルを定宿に変更したようでした。其処には専属住み込みの園芸屋さんが居て植栽の管理の指示者であり、温室の大きいのを二棟任されており、観葉植物から洋ランも育てていて、父の話し相手となってくれていました。従って、家から株分けした洋蘭を運んで何種類も寄贈したこともありました。私も付き合いで運転手として鉢を運んだりして、何回か泊まらせてもらったことがあります。浅いけれど広い半透明のガラスブロック作りの陽当たりの良い露天風呂風の風呂が魅力的で、大涌谷からの湯の花の入った白濁の湯で温まりました。また、通りがかりにチョッと寄って、その風呂だけ入らせて頂いた事もありましたっけ…、確かに然程日帰り風呂が流行する以前の事。実は今は改修工事中の儘月日が経っています。いつかは大雪の日に当たったこともありました。除雪車が雪に埋もれて路肩に放棄してある車迄平らに削っていて、国道一号線だけに除雪優先で強制執行出来た時代があったのだと思うと同時に、今は如何なのだろう…と思うのです。早々と除雪の終わっ

た箱根の道を越えて、様子を観たくて御殿場から富士五湖方向に向かって帰った処、籠坂峠から山中湖に向けての下りはガチガチに凍ったアイスバーンでブレーキも踏めず、エンジンブレーキをシフトチェンジしつつ(もっとも車は母のオートマチック車、結構私は今でも私のAT車でシフト使っています)ガタガタ・ズルズル下りました。あの頃はゴム・チェーン装着して、凍結路面もものともせず何処へでも行けていましたし、通勤もしていましたが、第三京浜道路を走る様になりスタッドレス・タイヤを履くようになった今、雪のあるところへ行かなくなったように思います。だいたい雪が降り積もったものね。私の子どもの頃など、大きな滑り台が作って貰えるほどの雪が降り積もったものです(70年程前の話です)。大人?になってからの前職在職中も、ひのえうま丙午生まれの人が16歳になる年度の4月の初旬入学式の日に大雪が降り、中庭の満開の桜の枝が折れ、それを式場に運び込んで(運び込まされてと云うべきか…)無駄に飾った様な春の降雪の時もありました…。関東的には、次第に降雪の冬が隔年になり、2-3年毎になり4-5年も降らなくなり…。ゴム・チェーンでさえ着け方を忘れ、地球温暖化を歴史的に肌で感じて生きていることになります、しかし70年以上も生きていれば、また雪も降ります。無論そこまで生きるとは思っていませんが、地球温暖化は人の問題、人類滅亡の後宇宙規模で考えれば、何れ地球のコアも冷え、冷たい地球になるはず…。

結婚後は極めて貧乏教師で月給4万数千円位からスタートしたと思いますが、其れから考えても大昔の話です。ですから、義父母との旅行等も出来るだけ安い所を探して行きました。無論援助はありましたが、招待されれば受けますが、お連れするような企画の時は私的には援助を受けずにいたつもりで居ました…。以前にも書きましたが、実家とは日光の定宿や変わった箱根の定宿もあり、父の具合もあって其れほど遠くへは行ってないと記憶していますが、義父母とは先ず義父の勤め先の保養施設山中湖寮へ行くほか、其処を拠点に山梨や信州や箱根や伊豆へも行きましたし、山中湖を経由地に使わず初めから遠方の目的地を目指したこともよくありました。其れから、私共が毎夏行っていた伊豆松崎やペットと一緒に泊れる旧館別室のある天城高原の宿に温泉付きの別室まできて一緒に行って私たちはペットと泊まれる部屋へ、義父母は別の其の温泉付きの部屋で泊って頂いたこともありました。犬嫌いの家ではそんな事は出来ませんね、嫌でも車中ではユキちゃん(御犬様)とも一緒なのでから…。しかし、其処は箱根と云うより伊豆天城高原、行き帰りに必ず箱根を通る感じでした。天城高原そのものは観光的ではなかったですが、ホテルからも富士見は出来ました。更に登って『天城高原ゴルフ・クラブ』手前の公営駐車場まで行けば更に富士山をはっきり見

ることが出来ますが、老人連れでは山には登れません。東に下って、伊東・稲取・熱川・河津・伊豆高原・大室山・シャボテン公園等々、西に下って修善寺・戸田・大瀬崎・三津浜・沼津等の伊豆観光、帰りは沼津のお寿司屋さん経由の事もありますが、箱根経由も多かった様に記憶しています。無論私共だけですとその無料の駐車場に車を置き、天城山と呼ばれる万三郎(=天城山:1406m)と万二郎(1299m)を回ったこともありましたが、万二郎からだ直登コースでグイグイ登る感じで、先を急ぐユキちゃんとも登りましたが、万三郎からだ険しいガレ場もあるけれど大きく巻いて登り、平らな感じの稜線を万三郎へ、万三郎から万次郎への稜線は深く掘れた山道に覆いかぶさるような馬酔木、馬酔木のトンネルが楽しめました。無論、逆コースでも馬酔木のトンネルを楽しめますが、万三郎に向けては登りであり二山を攻めるなら万三郎からが良いと思います。心残りは遠笠山に登らなかつた事。しかしここは静岡の話、話を神奈川県箱根に戻しましょう。

最近箱根と云うと、宿泊は仙石原。一つは天城高原と同じチェーンの宿泊施設、もう一つは小田急系の宿泊施設。天城高原と同系列と云う事はペットと泊まれる系でもあり、『ユキちゃん(犬)』とも『茶のこ(猫:R4.5.26 死亡…長寿で表彰されていましたが、もうあと数ヶ月で20歳になる処で亡くなりました。)』とも泊まりましたが、一緒に泊れる部屋もありますが私共は別々に、ケージ小屋…ケージが積まれている様な冷暖房完備のロッカールームの様な所で、チョッと如何なのかなと…思いはしました…が。行っている間で出歩く時は一緒に連れて行きますが、そうでない食事時等は部屋から逢いに行かなければならない感じなのです。其れに『湿性花園』の様に生態系の破壊と云う問題で犬入場禁止の施設もあって、観光地のペット連れ、なかなか簡単には行きませんし、猫はもう少しまた制限が増える様でしたが…。小田急系の宿泊施設は以前からの部屋の他に、離れのコテージが出来、露天風呂付で静かに楽しむ値段の安い時などはそちらを遣っていました。但し、本館の大風呂・露天風呂へ行くにはフロントを通らなければならず、其の度に着替えるのはチョッと面倒。フロントを通れる上下のスイートの様な甚平の様なものも部屋にはありますが、我々には似合い難い…。しかし此処は庭、かなり広くあり朝食後の2-30分程の腹ごなしの散歩には最適。此処もペットと泊まれるコテージもあるが、コテージが出来たのは最近の事、既に我が家に犬はいなかつたし、世のなかペットと云うとどうも犬の事らしく猫は想定外の様。従って、早川の流れる一段低い方の庭にはドッグ・ランも出来ました。初秋の庭を歩くと小さな栗の実が落ちていて沢山拾って持ち帰り、食してみた事もありますが、ちゃんと栗の味がしたのを覚えています、其れと気が付いた最

近 其の栗の木が何かにやられたらしく実を結ばないのです。テープでマークされていたので、何本かのクリの木は他の木の為に、伐採されるのでしょうか、楽しみが一つ減った感じがしました。庭の早川に掛かる橋を渡れば、『星の王子さまミュージアム』に行けるようになっているのは、同じ小田急系と云う事です。敷地の東隣箱根裏街道沿いには『ガラスの森美術館』があります。一方、天城高原と同じチェーンの宿泊施設の方は、池を隔てた北側には『箱根ルネ・ラリック美術館』があり、更にその少し先、歩いて行ける位置に『箱根湿性花園』があります。『箱根湿性花園』は箱根に行く度に確実に毎回行っています。但し、11月末から3月中旬一杯はお休みになるので行きたくても行きけません。毎回行っている割には草木の名前は憶えられず、以前から知っている水芭蕉・ザゼンソウ等は兎も角、トリカブトやコマクサだけは葉の形だけでも解る様になりました、もっとも位置が決まっているから覚えやすいのかも知れませんが…。それより、此処ではよく雉きじの鳴き声や雉の姿を見かけます。以前よく前述の『情風台』辺りでも雉を見かけましたが、箱根は雉が良く棲む所ようです。と思ひ込んでみたら、茅ヶ崎の山の方の一応住宅街でも雉の鳴くのを聞きました、神奈川県は思いがけず自然豊かな地域なのです。我々の都会で見かけないのは当たり前ですが、身近な多摩の話でも雉の話を聴かないものでそう感じるのでしょうか。桃太郎に出てくる雉が最近意外と身近に居ない時代のように昔話をしても「雉ってなあに？」って訊かれる時代になりそうな東京生活です。しかし、因みに他の高原などでもあまり遭遇した記憶が無いのです。天城高原には自然に鹿が多く生息していましたので、ペットと泊まれる部屋で夜になるとユキちゃんがクウクウ落ち着かなくなるのは、鹿が部屋に近付いて来ているからと理解していました。しかし、雉はどう云う事で存在を認識できるのでしょうか。鳴き声は兎も角として、野鳥ですから通常は姿を隠すのが得意で、なかなか気配を感じられず、突如鳴かれたり 飛び立たれたりするとビックリさせられ、写真撮影が間に合いません。「この辺あたりには雉が居るぞ」と気配を察知できる何かがあれば、教えて欲しいものであります。既に出遭った事のある場所ではそのつもりで居ますが、其れでも上記の如くチャンスを逃します。無論写真なんか撮れなくてもいいのですが、しっかりと観たくはあるのです、例えば飛び立たれるとそのことは覚えているが、慌てちゃってその飛び立つ姿は覚えていないと云うか観ることが出来ていないらしいのです。但し、『箱根湿性花園』で見た雉たかいいっせいは高い一声を時折発しながら、やや乾いた湿原を歩いて移動して居り、長い時間観ることが出来たので尚更、居るのなら都度確実に観たいのです。

大涌谷の噴気の活動が活発化し、長い事入場制限されたままですが、今は大涌谷の駐

車場のある所つまりロープウェーの駅周辺までは入れますが、行って見たいのは其の上、従って其の上には久しく登れていない事になる様な気がします、最後に登れたのは何時頃だったのでしょうか。『黒たまご』の源は、其の上の温泉池と蒸し釜のある『黒たまご』屋さんで普通のたまごを噴気に当てて『黒たまご』にするわけで、出来上がったものを専用の小型ロープウェーにぶら下げた金網で出来た卵籠たまごかごに乗せて、その下の大駐車場の付近にある2軒の『黒たまご』屋さんに配っている様でありました。従って、いまで売られている『黒たまご』は何処で製造されているのかチョッと謎であります。其れは兎も角 前述の通り此処から見える、富士山がまた意外と立派に見えるので、大涌谷(駅あるいは駐車場)に近づいたら、大涌谷と反対方向を、ロープウェーからでも一度見て欲しいです、其処に富士山が見えるのです。その日が富士見に良い天気である事を祈ります。晩秋から初春に掛けての寒い時期の晴れた日であれば、富士山は綺麗に見えるはずですから寒くはありますが、確率の高い時期をと思いお勧め致します。其れに寒い時期は温泉が何よりですし…。

芦ノ湖畔の名所と云うと、杉並木も有名かと思いますが、その反対の湖畔側で關所跡に隣接している、恩賜箱根公園があり此処も前述の通り富士見によい所でもあるのですが、造られた公園であり広い敷地があります。前述の通り、当時の皇族の離宮であり迎賓館であった跡地であります。元馬場の跡もあつたりますが、行かれたことありますか。最近はその説明がある展望館(一階)には寄らなくなりましたが、必ず昼食後の腹ごなしに此処に寄って散歩をする事にしているのです。位置的には函根はこね搭ヶ島と呼ばれる場所で、箱根芦ノ湖の半島元々はその名の通り島であったのかも知れないが陸との間が狭い箇所があり、やがて埋まって(埋めて)半島になった(した)のでは…と推測しています。その小島の様な半島の様な所全体が公園化されているのです。頂上辺りにある、展望館の正面には芦ノ湖湖尻方向に、外輪山を乗り越えんばかりの富士山が見え、その風景に先ず圧倒される絶好のビュースポットです。其処からは北方向に駒ヶ岳が其処から目を右回りに移すと、二子山が見え屏風山や大観山を見上げることが出来ます。NHKのニュースや天気予報で時折箱根の現況を写すことがあります。鳥居の在るあの景色はもう少し箱根神社寄りの成川美術館辺りからの元箱根もとほこねからの映像になると思いますが、箱根公園からの景色は何方かと云えば、箱根町方向からの風景になると思います。箱根町は新春恒例の箱根駅伝の往路のゴールと復路のスタート地点で『駅伝ミュージアム』がある程の所になって、箱根の町の中心地であり、箱根の宿場町があつた所でもあります。一方、元箱根は箱根神社の門前町と云つた所でもあります。東海道の上下りの大きな山場ですから従って、箱根神社詣もつでにも大きな意味があつたと

思います。最近元箱根はやや斜陽感がありますが、所謂『箱根戦争』の結果なのかも知れないです。成川美術館も車も少なく、観覧客も誰も居ないに等しい時期がコロナ直前にもありました。私は日光も知っているので、芦ノ湖遊覧船がニヶ所の元箱根港から発つと箱根園に寄ると寄らないのがあったり…は良いとしても然程離れていない二つの別々の港箱根町港と箱根関所跡港に着く事や終点の湖尻港と桃源台港の違いに何となく、不思議さを感じていましたが…、今は二つの港に夫々が着く事で折り合いをつける事になったのでしょうか…と理解しています。とは書きましたが、調べてみると元箱根については『棧橋騒動』なる強引な棧橋建設事件があり、其れの撤去を公は強制執行すると云う騒動があつて更に…、現在箱根町の方も同一の棧橋を使用するようなことはなく、箱根町も元箱根共に別々に二つずつ港(棧橋)があるのですが…その違和感にお気付きでしたでしょうか。従つて、湖尻も同様です。競争は兎も角、戦争だけは回避した苦肉の策なのでしょうか…。そう言えば、湖尻方面もかなり離れた位置に別々の名称での棧橋がありますね。

まっ、経済競争の話は兎も角、箱根の名所つて…と考えた時、結構今時取て行かなくなつた所も多い様な…。東京方面から行くとすると、道中小田原辺りの観光を済ませば、湯本から箱根は始まると思います。しかし車で行く与此処等辺りは駐車場も少なく、あつても町の奥に行かねばならず、街の中は細く狭くゴチャゴチャです。車を駅辺りに捨てて歩けるのであれば結構楽しめると思いますが、車に乗っている人は何処へでも車で行きたがるようで、そうした人には此処は大変です。其の上、駅近に駐車場が少ないのですから…。早川沿いの狭い川岸に開けた街で両岸共に山裾が迫っている地形的にも厳しさがあります。嘗て同行者の意向で、2000年(11.13)には既に亡くなった画家さん(平賀敬先生)の旧宅が解放されているとかで、間違えはしなかったが、グイグイ車で登り詰めたどん詰りの沢沿いの家を訪ねた事がありました。玄関の呼び込み塀には平賀敬美術館(2018.8.15 閉館)と書かれてあり、其れなりに見せる様にはなつていて綺麗でしたが、私の事、唐突に連れて行かされた所は、着くまでの大変さが大きいほど、到着後の目的地の印象を覚えていないものなのです。ただお風呂のドアに「入浴できます」とあり、こんな他人が覗きそうな所に入る人が居るのだろうかと思つたのですが、同行者の知り合いの絵を画く女性で入った人が居るという話を聞き「へへ、勇氣あるへ」と思つた事は覚えています。因みに平賀敬さんは横尾忠則さんと同世代の方で、ですから画風も似ていると云つては短絡的かも知れませんが、画風はポップであり所謂サイケデリックであつたと言えます。そして湯本と言えば温泉、此の画家さんの家のお風呂も温

泉だからこそ、「入って行って…」と書いてあったのです。一時代前から日帰り風呂なるものが流行り出しましたが、此の湯本にも日帰り風呂が増えました。前職中、多くが横浜は港北・青葉・緑などの各区辺りに住んでいたがその同僚の一人が仕事帰りに湯本の温泉に入って戻って帰っていったのを聞き、「横浜住いって温泉付きなんだ～」等と羨ましく思った事を思い出します。其処には古くから在る(日帰り)温泉場(上湯温泉浴場)で、お風呂屋さんと呼ぶいい様な処でしたが、日帰り風呂の流行の中一時逆に斜陽になっていましたが最近平日でも駐車している車を見かけるようになったと感じて、復活を感じ良かったと思っています。

湯本から、東海道と旧東海道に岐れます。石畳の旧東海道を箱根峠から探しつつ拾い歩いて下った日の事を思い出します。芦ノ湖から旧道を下り始め『甘酒茶屋』の先の自動車道路の脇に遊歩道がありますが、畑宿以降の下りは自動車道路を縫うように須雲川の河原に沿って須雲川遊歩道を下ったり、山側の旧東海道の石畳を歩いたりして車道を渡って右に左にジグザグに下ります。従って、街と言えるのは畑宿の辺りと湯本近くなった須雲川インター以降と思います。因みに畑宿は旧東海道の箱根越えの中継地であり、一里塚の名残のこんもりした塚状のものがありました。また寄せ木細工のメッカであり寄りませんでしたか「畑宿寄せ木会館」がありました。旧道歩き途中『甘酒茶屋』から(その上には『お玉が池』がある)畑宿の間は野猿が出て足を引っ張ったり持ち物を狙ったりしますからご注意ください、通常の一般道としての東海道は湯本の次は塔ノ沢・太平台から宮ノ下辺り。太平台は箱根登山電車のスイッチバックがあるので有名な所。宮ノ下辺りは富士屋ホテルを中心に、早川やその支流(蛇骨川)の渓谷地帯。道路への戻りの急な登りを覚悟の上ならば、かなり下へ下ると川岸を歩くことも出来るようになっています。無論富士屋ホテル参観も出来ましたが、リホーム後どうなっているのか…。宮ノ下から上は一段比較的平らな拓けた地域があります。小涌園を頂点に、強羅辺りを中心とした一帯であり、『彫刻の森』は有名ですが、強羅駅から歩いて登って強羅公園も早川方向に開けた展望のある傾斜地の良い公園です。更に奥には怪しげなと言っては失礼ですがある宗教団体の立派な箱根美術館もあります。大きな陶器の壺が陳列されていたのを覚えています、それ以上ではない感じでした。と言うか、強羅公園と箱根美術館を混同して記憶に残ってしまっているらしいです。強羅には一度泊ったこともあり、眼前の大文字焼の跡が印象として脳裏にあります。小涌谷方向に向けケーブルカーに沿って段々の傾斜地であり、大きな段々に宿泊施設や保養施設が並んでいるのです。前述の通り、此処から山道を抜けるとポーラ美術館を経て仙石原に行けますが、無論箱根裏街道と言う立派な正規のルートもあります…。因みに、強羅は『田村銀かつ』で食事を何度かした記

憶があります。今では昼からカツなどなかなか食べない、食べられないとは言わないが、食べない方が良く思っていて、其れでも増える体重増加を如何いかにともし難いのです。早雲山駅に車を停めて早雲山駅から強羅駅迄、そして登山電車で小田原駅まで往復し、ケーブルカーで早雲山駅へ戻ったこともありました。此れはまさに鉄道ファンならではの一日であり、忘れられない車窓風景があり、スイッチバック等も大いに楽しめました。無論スイッチバックと云えば山崩りに中央東線の萑崎・勝沼・笹子・初狩の本物の其れは体験済みですが、今やループ式やスイッチバック式・アプト式等は国鉄時代または近代鉄道の遺産であり存在さえしていませんので、この箱根登山鉄道の其れは昔懐かしくノスタルジックで良いのです(大井川鉄道も同様ですが…決して近くはないので…)。さてそして、あまり記憶にないので、私小涌園には行ってないと思いますが、チョッと私向きではない様な…。ただ小涌園前近くの梅園(箱根小涌園**蓬菜園**)には行った事あります。其れと途中で東海道を逸れて、逸れた道の途中で車を置いて歩いて千条ちすじの滝を見に行った記憶も何度かあります。因みに、この逸れた道を辿って登っても、上記梅園に出られます、地図を見てみて下さい。1国(国道一号線)を箱根町消防本部を左手に観て上ると、箱根登山鉄道の踏切を渡ったら少し行くと急角度に戻る感じに左折、此の別れ道がありますよ…。

此処から先、箱根駅伝でもう一つの有名になった箱根恵明学園(建物はまだ残っているが最近移転したらしい…)を過ぎ、ウネウネ登るとグウンと下りグウンと登る直線道路になります。此処は箱根駅伝では映らない所ですが見通しも利き良い所と思っています。此処も忘れられた名所地帯と言えます。芦之湯から精進池の間は歴史遺産が詰まっているのです。曾我兄弟(仇討たれた工藤祐経は NHK の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』に貧相な(=小汚く情けない)男として出て来たらしいが…。今時、歌舞伎の時代でもなく、工藤祐経への仇討ちなどは流行らないか…?私、子どもの頃よく曾祖母の歌舞伎の月刊誌『演劇界』を端から見ていましたと虎御前(曾我十郎の妾:半生かけて兄弟の菩提を弔った)の墓・二十五菩薩・多田満仲の墓(高野山奥之院にもお墓がある方)・八百比丘尼(伝説上の人物?妖怪なのかも…人魚の肉などを喰らい不老不死になったと云われるが、その割に各地にお墓がある様)の墓・応長地藏・六道地藏(摩崖仏:嘗てと言っても比較的最近現代と云える時期、此処で古銭を拾った、お賽銭にしても…)・石仏群と歴史館などが続いて現れる。一度は芦之湯温泉から歴史館まで歩いてみると良いとは思いますが、逆コースの方が下りだから良いかも…、二子山の乗り口もこの途中にあるのです。

さて、国道一号線の歴史の道を登り詰めたら今度は芦ノ湖を目指してウネウネ下る。芦ノ

湖越しの富士山も見えて、キラッと光る芦ノ湖が見えると何故かホッとします。芦ノ湖周辺にも古くからの遺産があります。箱根神社もその一つ。幅の狭い階段をグイグイ(最近はやタヨタ・ガクガクでしょうか…)登っていくと、本殿に出る。周囲は杉の古木に覆われ天狗が出るかも知れないが、其れは兎も角、春先に行くのは花粉症の方には難行苦行になると思う、黄色い花が一杯…。抑々の隆盛の始まりは、今年度のNHKの大河ドラマの源頼朝の熱い信仰を受けて関東総鎮守箱根大権現と崇められるようになったことからの様です。また一方源頼朝は、二所詣の始祖と云われるようになったとのこと、二所(社)の二については不明瞭な点がありますが、伊豆山の走湯山(走湯権現・伊豆山権現)と箱根山(箱根権現)への信仰は平安時代から続くものですが、但し走湯山の伊豆山神社・箱根山の箱根神社の二所権現と三嶋社の三島大社へ参詣する処の二所詣は源頼朝に始まると伝わっているのです。何れも頼朝が源氏再興を祈願し天下を取らせたパワースポットになるのでしょう。更に古くは平安時代の延暦20年(801)、征夷大將軍の坂上田村麻呂は蝦夷征討の際に参詣して表矢を奉献。この嘉例に倣い源頼義もまた天喜年間に参詣し表矢を献じたことと云われて居ます。また、弘仁8年(817)、嵯峨天皇の勅によって当社に駿河・伊豆・相模の荘園を寄進したそうです。続いて鳥羽上皇も相模国酒匂郷48町を寄進されました。また平安末には中古三十六歌仙の歌人の相模が参詣し、御神前で百首の和歌を献詠しています。従って、平安時代からの由緒正しい神社だからこそ源頼朝も尊崇せざるを得なかったのであろうと思われま

す。さてそして、もう一つ九頭竜神社の新宮が出来ました。九頭竜神社の本宮は芦ノ湖畔の湖尻寄りにありますが、此処には神官が居らず、祈祷が出来ないため最近のブームの中、箱根神社に新宮が作られたようで、最近の詣時にその存在に気が付きました。ただ足の悪い私など階段登りより湖尻からのハイキングの方が良いように思うのです。以前は荒れた湖畔の森の中に社だけがあって湖側からしか参詣できなかったようで、箱根町や元箱根からペーパーボートでぶっ飛んで行くのが流行ったので、実は神社詣も今様になったものだと思って見ていた処でした。

芦ノ湖周辺は前述の通りで、桃源台からは小田急繋がりで大涌谷經由早雲山までの途中駅のある長いロープウェーがあり、箱根周遊の起点になっています。ただ何となく周辺は再開発されて建物も更新され増えましたが、肝心の湖尻港そのものは、なんか今一と感じるの

は思い込みでしょうか…。一方の南東側のエンドは前述の二つずつ港のある箱根町と元箱根の町なのです。さてそして、前述の恩賜箱根公園・杉並木・箱根開所跡等があり成川美術

館があります。以前は必ずと言っていいほど箱根公園の斜向かいのレストランブライ^{はすむかい}(義父がゴルフの行き帰り等に利用したらしく紹介されて…)に寄って昼食を採っていましたが、最近の昼食は箱根ホテルに換えています。いつか台風の日に天城高原へ行くつもりで嵐を突いて箱根に入ったが伊豆スカイライン通行止めと云う事で取り敢えず安めの提案もあり箱根ホテルに急遽泊まった事があり、それ以来の縁で時折昼食には寄っているのです。因みに、客室はやや狭めで風呂は部屋には無く、最上階の室内風呂はやや暗く露天風呂風では無いが天井が丸く抜けていました。この日の台風の雨は夕刻には一旦止んで関所跡を取り抜け恩賜箱根公園を散策出来る程でしたが、夜は再び降り返し、天井の穴から雨が吹き込んで真夏なのに冷たさを感じました。(中略)

箱根峠手前からは芦ノ湖スカイラインがあり、箱根外輪山を凡そ 1/3 周できます。箱根峠寄りの方は芦ノ湖から駒ヶ岳・二子山も良く見えて景色を楽しめますが、後半は外輪山の外側を走ることが多く、富士山が見える事になります。芦ノ湖スカイラインの終点長尾峠辺りから見る富士山は乙女峠からの富士山同様に絶景です、何せ全身が見えるのですから…。長尾峠・乙女峠から再び箱根に戻るとなると、仙石原に降りてきます。冒頭書きましたように、渋沢栄一の発想で開拓された仙石原でもあります。特に、箱根外輪山の長尾峠は、トンネルを抜けた辺りで東方向の眺め、以前茶屋のあった辺りからの仙石原から大涌谷方向のパノラマ風景は、まさにジオパークのモデルの様で一見の価値があると思っています。南端には芦ノ湖も見え、カルデラの中に中央火口丘が見られ、二重火山を目の当たりに観ることが出来る。カルデラ火山であり、カルデラはおおよそ東西 8km、南北 12km、外輪山は玄武岩～安山岩の成層火山群から出来て居ます。前期中央火口丘(新期外輪山)は安山岩～デイサイト(デイサイト(英語: dacite)とは、火成岩の一種です。深成岩の花崗閃緑岩に対応しています。過去には「石英安山岩」と呼ばれていましたが、成分的にデイサイトであっても石英結晶を含まないものもあり、また現在では安山岩よりも流紋岩に近いという考え方が主流であることから、「石英安山岩」の名称は使われなくなっています。火山岩は岩石全体の成分(特に SiO_2 = 二酸化ケイ素の比率)で分類され、デイサイトは SiO_2 が 63 - 70% でアルカリ成分の少ないもので、通常は斑状組織を持っています。色は白っぽいことが多いですが、噴出条件や結晶度などにより多様です。斑晶および石基として、有色鉱物である黒雲母・角閃石・輝石・無色鉱物である斜長石・石英等を含む)の溶岩および溶岩ドームから形成されています。後期中央火口丘は安山岩で、成層火山である神山や駒ヶ岳および二子山など

の溶岩ドーム群からなります。主峰の神山の北側に活発な噴気地帯である大涌谷と早雲山があり、駒ヶ岳東麓にも湯の花沢・硫黄山噴気地帯があります。噴火の歴史記録はないですが、噴気の活発化や、崩壊・土石流がしばしば発生するほか、群発地震が観測されています。最新のマグマ噴火では、神山の北側斜面に溶岩ドームが貫入して現在の冠ヶ岳が形成された一方、山体崩壊により岩屑なだれが発生したと思われます。岩屑なだれ堆積物は早川をせき止めて、芦ノ湖が現在の形になり、その後、大涌谷周辺で数回の水蒸気爆発があったことが地質調査により知られています。安山岩・デイサイトのSiO₂量は55.6～67.8wt.%であり、玄武岩のSiO₂量は報告されていないが、流紋岩のSiO₂量76.5wt.%が報告されています。

過去1万年間の噴火活動について。最近1万年間の活動は、カルデラ内の後期中央火口丘群に限られ、マグマ噴火は溶岩または溶岩ドームの形成と、それに伴うブロックアンドアッシュフロー型火砕流の発生を特徴です。このほか、水蒸気爆発も認識されています。マグマ噴火としては、約8000年前の神山山頂付近の噴火、約5700年前の二子山溶岩ドームの噴火があげられます。最後に発生したマグマ噴火は約3200年前の神山のものでこのときは、神山の北西側が山体崩壊し、冠ヶ岳が形成されました。以降、水蒸気爆発として約3000年前、約2000年前、12世紀後半～13世紀の短い期間に3回の計5回が認識されているが、噴出物から本質物質は見つかっていないようです。此の時の神山の山体崩壊によって、崩れた土砂は早川を堰き止め、芦ノ湖や仙石原を作りだしたのです。従って、箱根の外輪山が活動し始めたのは40万年前頃からの事と言われ、地球の歴史の範疇であって、現在の我々が知る箱根山は1万年前以降の中央火口丘のみの火山活動に因る結果なのです。しかし、箱根の外輪山を含む大きな山があったと想定するのも面白いのかも知れません、その山体の多くが昔々の大昔、吹っ飛んだと考えてみて下さい…現に昔話にもそんな話があります…。

以上、仙石原には地学的・地質学的に見るべき所はありますが、此方^{こち}方面は先ずカルデラ内で、広さがあるという点で諸々のテーマパークがあります。前述の様に箱根ラリック美術館・ガラスの森美術館・星の王子様美術館・ちょっと離れてポーラ美術館などあり、これ等建物内で冬でも見学できるミュージアムの他私の好きな湿性花園が3月後半から11月一杯開園しています。ポーラ美術館は最近その前庭の森を散策できるようになり、美術鑑賞をスルーして森だけ散歩して戻ることもあります。

話は戻って、私には関係ありませんがゴルフ場の立派なものも4か所以上ありそうです。前述の通り、このゴルフ場を縫うように湖尻迄のハイキング道があり、途中に牧場『こうぼくしゃ耕牧舎』の支配人の碑があるようで…、一度歩いてみたいと思っているのは、前述の通りであります。

之で冒頭の話に戻った処で箱根を一巡しました。たかが温泉地とは云うものの、箱根は全体が二重火山でカルデラ湖があるジオパークであり、関東圏特に首都圏の間近にある大きな保養地・リゾート地であり、みなものよりみつ源頼光の四天王の一人と言われて来た坂田さかたのきんとき金時の金時神社を初めとして歴史的伝説的評価も高く、そして温泉も楽しめる場所と理解して居るわけであり、リラクゼーションの為には程良い憩いの地域と心得ていて、前述の様に、ホッと一息と云う時に、よく行く場所になっています。